



上) 解体前の久米邸
下) 久米民之助翁の肖像。「沼田公園生みの親」と沼田かるたの読み札として親しまれる

編集者で画文家の宮沢洋さんがブランディングした久米邸のイラスト

特集 旧久米邸洋館中間報告

洋館移築で地域活性化 大正ロマンエリアに復元

市はおとし9月、本市名誉市民で沼田公園を整備した久米民之助翁の旧久米邸洋館を東京都渋谷区から移築を決めました。上之町の文化財建造物群の大正ロマンエリアの一角に移築し、来年度末の完成を予定しています。進捗状況や活用方法についてお知らせします。
問合せ 文化財保護課文化財保護係 ☎ 内線2601

移築は東京渋谷の住民や専門家らでつくる「代々木上原旧久米邸洋館保存プロジェクト」の働きかけなどを通して進め、建物解体時の調査を通して、使用可能な建築部材を沼田へ運びました。調査内容は昨年4月にイベントで報告しています。

旧久米邸洋館について

洋館は久米邸に付随した応接間で、明治末から大正初頭頃の建築と推定。歴史的建造物としての評価もあります。敷地は約2万坪と広大で「代々木御殿」と呼ばれていました。

その後、洋館の所有は紀州徳川家から鉄道会社に移り、住宅地として区画・分譲されました。洋館は内外装共に改修が行われていますが、基本的に当初の形態を残しています。

調査からたどる昔の姿

解体調査で確認された痕跡や古写真、建築部材から約110年前の姿が明らかになってきました。外壁は、くわずかに白いタイルが残っていたことが分かり、形状や成分から建築当初のものと判断しました。屋根はスレート葺きであることも判明し、復原図を作成しました。

活用方針を協議

今後の保存と活用方針を決めるため、建築や文化財関連の有識者で構成する旧久米邸洋館保存活用方針策定検討委員会を設置。議論内容を基に調査方法を考え、設計に反映しました。

着工は今月。建築部材は再び使えるように補修しながら復元し、来年度末の完成を目指します。進捗状況などの報告会なども予定しています。

大正ロマンエリアの活性化

現在、洋館が移築される大正の情緒あふれるエリア(上之町)には、県指定重要文化財「旧沼田貯蓄銀行」、国登録有形文化財の登録を受けた2つの建造物「旧土岐家住宅洋館」「旧日本基督教団沼田教会記念会堂」や「生方記念文庫」が並びます。一般公開のほか、音楽団体への貸し出しやコンサート会場としての利用、バス旅行の見学やはかまで町歩きを楽しむイベントでもにぎわっています。



大正ロマンをイメージしてデザインされた根付